

とうきょうとしょくいんふくむきてい しょうわよんじゅうななねんとうきょうとくんれいだいひやくにじゅうごう ぼつすい
東京都職員服務規程（昭和四十七年東京都訓令第二百二十二号） 抜粋

しょうがい りゆう さべつ きんし
(障害を理由とする差別の禁止)

だいななじゅう さん しょくいん じ む また じぎょう おこな あ しょうがい りゆう
第七条の三 職員は、その事務又は事業を行うに当たり、障害を理由として、

しょうがいしゃ しょうがいしゃ もの ふとう さべつてき とりあつか
障害者と障害者でない者とを不当に差別的な取扱いをすることにより、障害者の

けんりりえき しんがい
権利利益を侵害してはならない。

2 しょくいん じ む また じぎょう おこな あ しょうがいしゃ げん しゃかいてきしょうへき しょうがい
2 職員は、その事務又は事業を行うに当たり、障害者から現に社会的障壁（障害

りゆう さべつ かいしょう すいしん かん ほうりつ へいせいにじゅうごねんほうりつだいろくじゅうごう だいにじょう
を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成二十五年法律第六十五号）第二条

だいにごう きてい しゃかいてきしょうへき じょきよ ひつよう むね い し ひょうめい
第二号に規定する社会的障壁をいう。）の除去を必要としている旨の意思の表明が

ばあい じっし ともな ふたん かじゅう とうがいしゃかいてきしょうへき
あつた場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、当該社会的障壁の

じょきよ じっし ひつよう ごうりてき はいりよ
除去の実施について必要かつ合理的な配慮をしなければならない。